

第10期 新規メンバー募集のご案内

ソフトウェア開発マネジメント交流会議

～ ソフトウェア開発マネージャー、リーダーによる相互啓発と共同研究 ～

開催にあたって

近年、ソフトウェア開発をめぐる環境は、オープンソース、ネットワークとの融合、グローバル化の進展などの影響により急速に変わってきております。従来はハード中心だった商品設計からソフトウェアを中心とした商品設計の重要性が増しており、新しい課題としてソフトウェアによる価値創造という視点が大きなテーマとなってまいりました。

一方、商品の高機能化や多様化によってソフトウェア開発の規模や量は増え続け、開発プロセスの革新や品質保証といった課題もいまだに重要性が高いと言えます。さらに、ネットワークにつながる機器が増えたことにより、セキュリティ対策といった課題も重要性がますます高くなってまいりました。

当フォーラムではこのような課題認識の下、ソフトウェア開発の実務を担当しているマネージャー、リーダークラスの方々が集まり、現場で起こっている課題を持ち寄って討議をしながら具体的な解決策を模索しております。

第10期開催にあたり、強い問題意識を持った多くの方のご参加をお待ちしております。

第1回例会

※入会をご検討中の方は第1回例会に限り、無料で体験参加ができます。

【日 時】 2015年3月6日(金)13:00～18:30

【会 場】 東京・表参道「アイビーホール」

■10周年記念プログラム①〈基調講演〉

「小惑星探査機『はやぶさ』帰還に見る ロボット技術、ソフトウェア開発と困難を乗り越えるマネジメント」

(独)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙機応用工学研究系 教授 久保田 孝 氏

【略歴】1986年東京大学電子工学科卒業。1991年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。その後、富士通研究所研究員を経て、1993年文部省宇宙科学研究所入所。現在、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 宇宙機応用工学研究系教授。東京大学大学院工学系研究科教授併任。1997年～1998年米国NASAジェット推進研究所 客員科学者。はやぶさプロジェクトの航法誘導担当、ミネルバ担当、はやぶさ2プロジェクトのミネルバ2担当。

【主な著書】宇宙ロボティクス、月惑星探査ロボット、自律航法誘導、宇宙人工知能。



■10周年記念プログラム②〈パネルディスカッション〉

「ソフトウェア開発 —これまでの10年、これからの10年—」

パネラー： 江口 和俊氏 東芝ソリューション(株) 技術顧問
(順不同) 田丸喜一郎氏 (独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア高信頼化センター 調査役
南光 孝彦氏 パナソニック(株) AVC ネットワークス社 技術本部 AVC CTO 室 技術管理担当総括主幹
久野 倫義氏 三菱電機(株) 設計システム技術センター ソフトウェアエンジニアリング部 グループマネージャー
内山 博喜氏 リコーITソリューションズ(株) 取締役執行役員 エンベデッドソリューション事業部 事業部長
斎藤 芳明氏 富士ゼロックス(株) CT開発本部 CT開発企画 G グループ長
司 会： 根本 強一氏 ソニー(株) 設計品質技術2部 統括部長

第2回例会

【日 時】 2015年4月17日(金)13:00～17:00

【会 場】 東京・表参道「アイビーホール」

「アジャイル開発の視点から見たソフトウェア開発のこれまでとこれから」

- ・アジャイル開発の特徴と価値
- ・進化するソフトウェア
- ・アジャイル開発は何を変えてきたのか、何を変えていくのか
- ・カイゼン手法としてのアジャイル開発 (KPT を活用したチーム運営)

(株)永和システムマネジメント コンサルティングセンター センター長 天野 勝 氏



運 営 幹 事

*本交流会議の企画・運営にご協力いただくと共に適宜、アドバイス・サポートをいただきます。

(順不同・敬称略)

ソニー(株)	設計品質技術 2 部統括部長	根 本 強 一
リコー ITソリューションズ(株)	取締役執行役員 エンベデッドソリューション事業部 事業部長	内 山 博 喜
富士ゼロックス(株)	C T 開発本部 C T 開発企画G グループ長	斎 藤 芳 明
サンリツオートメーション(株)	ソリューション部 部長	高 倉 広 義
(株)東芝	技術・イノベーション部 技術企画部 参事	深 谷 哲 司
三菱電機(株)	ソフトウェアエンジニアリング部 組込ソフトウェア品質改善推進グループ マネージャー	大 倉 隆 郎

参 加 対 象

ソフトウェア開発・技術部門、ソフトウェア品質保証・プロセス改善を担うマネジメントに係わる方々で、本流交流会議の主旨に賛同し、情報交流、相互啓発に積極的に参画いただける方々。

プログラムの基本的進め方

- ◆研究・討議・運営方法は運営幹事の協力・アドバイスをいただき進めてまいります。
- ◆メンバー各社の取り組み、抱える課題、問題、悩み、などを収集し、メンバーのニーズ、問題意識を浮き彫りにし、研究課題を集約・重点化します。
- ◆集約・重点化された研究課題はプログラムに反映させ、前半のゲスト講演、事例研究並びに後半の課題研究・グループ討議を通じて掘り下げ課題解決・発展のヒントを相互に得合ってください。

ゲスト講演、事例研究： 13:00~14:30

■ゲスト、事例に学ぶ開発のマネジメント

主要企業のソフトウェア開発管理責任者をゲストに招き、開発効率化、プロセス改善など具体的展開の苦心談、解決策を学びます。

課題研究： 14:40~17:00

■希望テーマに分かれてグループ討議（分科会）

メンバーの問題意識を集約・重点化し、整理された課題をテーマにして、希望に分かれて分科会形式でグループ討議・意見交流を数会合重ね、その結果を最終会合で報告し合い、成果を共有します。

研究会の特徴と基本方式

1. 異業種交流を深めることにより業種・業界の壁を越えた新しい発想や手法を学ぶことができ、また、社外のネットワークを広げパーソナルバリューの向上が図れます。
2. ソフトウェア開発マネジメントの新しい流れや考え方、実践手法について、研究者・先進企業の事例研究により最新の情報を収集できます。
3. 単なる情報交換だけでなく、その背景にある実務に直結したノウハウの交換が行えます。また、必要に応じメンバー企業間の資料交換も行います。
4. フォーマルな研究活動に加えインフォーマルな研究活動を随時行うことで、信頼関係に裏打ちされた“ここだけの話”的なディスカッションが可能となります。

《メンバーの基本スタンス》

1. 会の目的達成のため、可能な限りギブアンドテイク、全員参画体制をモットーに運営する。
2. 本音ベースの議論を深めるため、互いに守秘義務を遵守する。
3. 企業規模、職位、経験に関係なく積極的に会の討議・交流に参加する。

開 催 要 領

■ 2015年3月6日～11月20日〔毎月1回：全9回（合宿研究会1回含む）〕

■ 時間帯：13:00～17:00

■ 会 場：東京都内会議室

日 程	研究テーマ／講演・討議内容日程	
第1回 3/6 (金)	■10周年記念プログラム①〈基調講演〉 「小惑星探査機『はやぶさ』帰還に見る ロボット技術、ソフトウェア開発と困難を乗り越えるマネジメント」 (独)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙機応用工学研究系 教授 久保田 孝 氏 ■10周年記念プログラム②〈パネルディスカッション〉 「ソフトウェア開発—これまでの10年、これからの10年—」 パネラー：江口和俊氏 田丸喜一郎氏 南光孝彦氏 久野倫義氏 内山博喜氏 斎藤芳明氏 司 会：根本強一氏	オリエンテーション ■研究会のすすめ方 ■懇親会（懇親、名刺交換）
第2回 4/17 (金)	講 演 アジャイル開発の視点から見た ソフトウェア開発のこれまでとこれから ・アジャイル開発の特徴と価値 ・進化するソフトウェア ・アジャイル開発は何を変えてきたのか、何をえていくのか ・カイゼン手法としてのアジャイル開発（KPTを活用したチーム運営） (株)永和システムマネジメント コンサルティングセンター センター長 天野 勝 氏	分科会研究 * 下記例示の研究課題を参考に問題意識の強いテーマを取り上げ、全体研究・グループに分かれた分科会研究を通じて課題解決策を意見交流し、実践手法、マネジメントのあり方を掘り下げる。 ■テーマの例示
第3回 5/29・30 (金・土)	合 宿 研 究 会 (伊豆近郊のホテルを予定) PART1：希望テーマに分かれて グループディスカッション PART2：分科会の年間計画の発表と 意見交換	1. ソフトウェア開発におけるビジネスモデルとマーケティング ・ソフトウェア開発による新しいビジネスモデルの検討 ・ソフトウェア開発による顧客価値の創出 ・ソフトウェア開発による参入障壁の構築 2. ソフトウェア開発戦略とマネジメント ・ソフトウェア開発戦略、開発力強化のあり方 ・ソフトウェア資産の活用と有効化 ・コンカレントな開発体制、コミュニケーション
第4回 6/19 (金)	講 演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定	3. ソフトウェア開発のプロセス改善と効率化 ・開発プロセスの設計、見える化、計測 ・上流工程、下流工程での改善策 ・ソフトウェア開発のスピードアップ、自動化策の検討 ・セーフティ&セキュリティへの対応
第5回 7/17 (金)	講 演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定	4. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント ・ソフトウェア開発計画と成果物の明確化 ・費用、コスト、リスクのマネジメント ・進捗管理、問題解決管理
第6回 8/21 (金)	講 演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定	5. ソフトウェア開発の品質保証 ・ソフトウェア品質定量化、可視化の考え方と方法 ・品質メトリクスと改善活動の導出 ・不具合流出防止のためのテストのあり方 ・上流工程からの品質保証
第7回 9/11 (金)	講 演 ※メンバーの問題意識をもとにゲストを選定	6. 競争力を高めるためのオフショア開発 ・マーケットニーズを捉えるための海外現地開発拠点の展開 ・海外リソースの有効活用と最適化 ・海外開発拠点のマネジメント、人材育成
第8回 10/16 (金)	分科会 分科会研究 — 最終会合に向けたまとめ	7. ソフトウェア開発者の人材育成と組織活性化 ・スキルの戦略的向上・吸収策、属人性からの脱出 ・教育環境、開発環境の改善 ・モチベーション向上策
第9回 11/20 (金)	総括研究 ①分科会のグループ討議成果報告と全体討議 ②修了懇親会—今後の研究活動活性化のために	

前期(第9期)研究経過

※会社名・所属・役職は講演当時。

	講演テーマなど
第1回	「グローバル化に伴うソフトウェア開発戦略」 ▶オリエンテーション 東芝ソリューション(株) 技術顧問
第2回	「宇宙機ソフトウェアの安全性・信頼性の向上のためのI V & V（独立検証及び有効性確認）」 ▶分科会研究 有人宇宙システム(株) 安全開発保証部 主幹技師
第3回	合宿研究会 希望テーマに分かれて分科会を編成問題意識課題の交流、今後の研究計画の検討作成 PART 1：分科会テーマ別グループディスカッション PART 2：分科会年間スケジュール計画の策定
第4回	「サムスンの変革から学ぶグローバル競争を勝ち抜くものづくりとソフトウェア戦略」 ▶分科会研究 東京大学大学院経済学研究科 ものづくり経営研究センター 特任研究員
第5回	「SECにおける最近の研究活動と成果 ～コーディング作法について～」 ▶分科会研究 工学院大学 非常勤講師(独立行政法人情報処理推進機構 ソフトウェア高信頼化センター 調査役)
第6回	「組み込み機器のセキュリティとファジングによる対策」 ▶分科会研究 (株)FFRI 執行役員 製品開発本部長
第7回	▶分科会研究 最終会合に向けた分科会を中心とした集中討議
第8回	「要求工学の実践事例と実践の秘訣」 ▶分科会研究 南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科教授
第9回	総括研究 ①分科会 成果発表会—6分科会の発表と全体意見交流 ②終了懇親会—メンバー評価の高かったグループの発表

前期参加企業

(28社58名 本社・事業部のソフトウェア開発部門の部課長及びグループ・チームリーダーの方々)

ソニー(株)	東芝ソリューション(株)	三菱電機(株)
リコーITソリューションズ(株)	富士ゼロックス(株)	(株)リコー
コニカミノルタ(株)	サンリツオートメーション(株)	セイコーエプソン(株)
パナソニック(株)	住友重機械工業(株)	パイオニア(株)
トヨタ自動車(株)	エイムネクスト(株)	東芝テック(株)
理想科学工業(株)	ニスカ(株)	TOA(株)
ヤンマー(株)	ヤンマーエネルギーシステム(株)	NEUSOFT Japan(株)
(株)島津製作所	富士電機(株)	村田機械(株)
ヤマハ(株)	ブラザー工業(株)	(株)ワコム
(株)東芝		

第9期メンバーの声

- ・他社の方と協議することで自分の知識不足を知ることが出来るとともに、様々な新たな知識を得ることが出来た。
- ・他社の方から別の視点を得ながら、自社のみでは捉えられなかった結論を出せたと感じる。
- ・「業務ではこんな感じで進めている。」というような生の情報が得られて、とても参考になりました。
- ・現在のトレンド、具体化されたテーマのみでなく、研究段階、知識体系まで幅広く講演を聞くことが出来た。
- ・異業種の方とソフト開発における課題を議論する良い機会でした。
- ・色々な会社の方とザックバランに話しが出来て、幅広く意見を聞くことが出来、新しい視点や情報が得られました。
- ・各テーマに関する他社の取り組みが具体的に分かって良かった。
- ・自社での課題解決に活かせるものが多かった。
- ・講演会よりもグループや懇親会で話したことが参考になりました。

第9期 ソフトウェア開発マネジメント交流会議 一分科会活動報告

本交流会議における分科会研究活動とは

メンバーの問題意識、課題をベースに、例示の研究課題を参考に優先順位の高い希望テーマに分かれて分科会（研究グループ）を編成。第2回例会以降、7回の研究討議を重ね、それぞれに成果をまとめ、共有の財産として残し合い、メンバー各社の現場で活かされています。

第9期は6つのグループで分科会研究活動を行いました。ここでは紙面の関係上、3つの分科会発表資料の一部を紹介しております。

第9期の分科会 討議テーマ

- A. ソフトウェア開発におけるビジネスモデルとマーケティング
- B. ソフトウェア開発のプロセス改善と効率化
- C. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメント
- D. ソフトウェア開発の品質保証
- E. 競争力を高めるためのグローバル最適化開発
- F. ソフトウェア開発者の人材育成と組織活性化

Aグループ ソフトウェア開発におけるビジネスモデルとマーケティング

活動の流れ

- ・各社の顧客からの要求の吸い上げ方を整理
 - ・コンシューマ製品、特定分野製品
 - ・はがき、ヒアリング、Web、営業/サービス部門からの情報
- ・吸い上げた情報の分析について考察
 - ・仕様に取入れるもの、割り切るもの
 - ・その判断基準
 - ・プロダクト視点で分析して行き詰まる...
- ・広くソフトウェアの成功事例調査を実施
 - ・マーケティング3.0の重要性に気付く
- ・マーケティング3.0での成功事例の深掘り

マーケティングの歴史(定義変遷の背景)



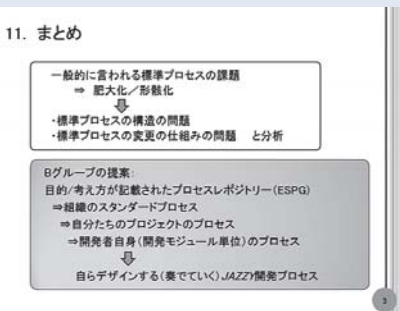
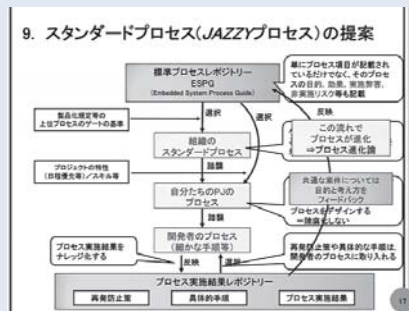
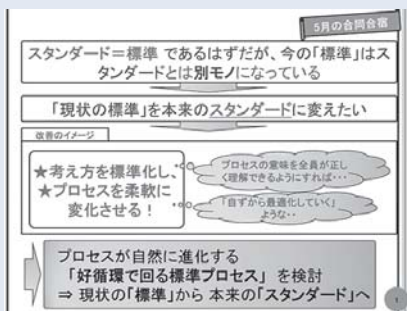
まとめ

- ・マーケティング3.0(Co-create, Collaborative, National)の実現にはソフトウェアの力に負う所が大きい
- ・ハードウェア商品の中のソフトウェアという位置付けから、ソフトウェア中心のビジネスモデルに変わる
- ・エンドユーザーが共感し、企画・開発に加わることでソフトウェアの進化を更に促している

「客₀₀₀と我₀₀₀ 成功の鍵 ソフトウェア」

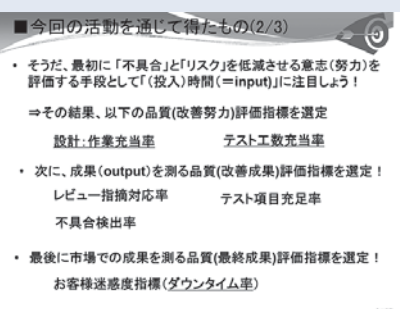
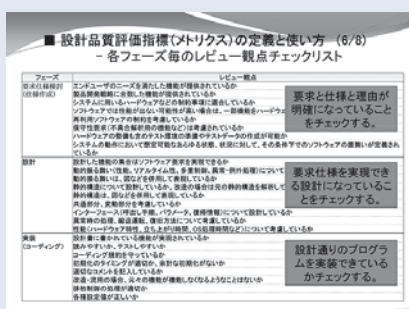
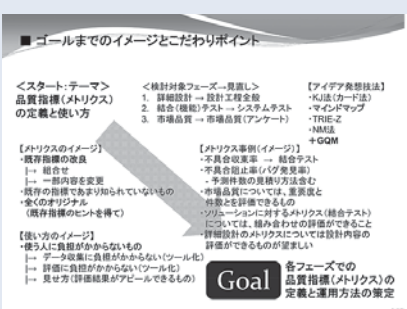
広くソフトウェアの成功事例を調査しマーケティング3.0の重要性に気付く、マーケティング3.0の実現にはソフトウェアの力に負うところが大きく、「ソフトはハードの付属品」という考えからソフトウェア中心のビジネスモデルに変化、顧客、パートナーと共感、協力、共同して企画開発することがソフトウェアの進化に繋がることを提案。

Bグループ ソフトウェア開発のプロセス改善と効率化

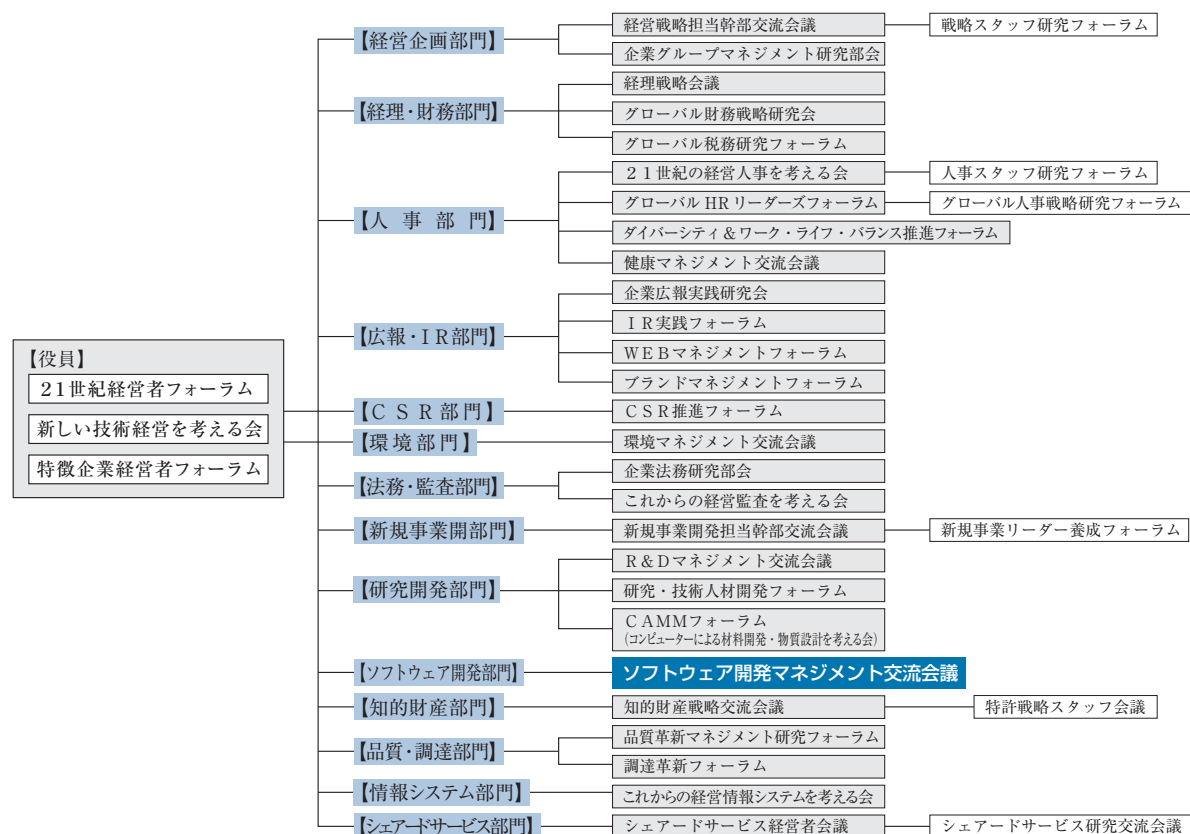


プロセスが自然に進化する「好循環で回る標準プロセス」を検討⇒現状の「標準」から本来の「スタンダード」へ、自らが継続的に成長し、環境最適化するフレキシブルプロセス⇒これがあるべき姿と考え、スタンダードプロセス(JAZZYプロセス)を提案。

Dグループ ソフトウェア開発の品質保証



各フェーズでの品質指標(メトリクス)の定義と運用方法を検討、設計品質評価指標、テスト品質評価指標などの各フェーズのチェックリストを作成、市場品質評価指標では市場不具合件数、顧客クレーム度合いの重要性を指摘、顧客に一番迷惑を与える「業務停止」にフォーカスし、お客様迷惑度指標(ダウンタイム率)を提案。



第10期 ソフトウェア開発マネジメント交流会議 申込要領

参 加 費
(1社2名分)

正会員	216,000円 (本体価格200,000円)	一 般	237,600円 (本体価格220,000円)
-----	-------------------------	-----	-------------------------

一社2名まで参加可能です。

・但し、全体で開催する5月の合宿研究会は別途実費をご負担いただきます。

*分割請求(2分割・月割など)やお支払い時期についても承りますので、お気軽にご相談ください。

申 込 先

一般社団法人 企業研究会 担当:井堀、金井 ※不明な点はお気軽にお問い合わせください。

TEL: 03-5215-3550 FAX: 03-5215-0951 E-mail: ibori@bri.or.jp

URL: <https://www.bri.or.jp> [トップページ]⇒[研究交流]⇒[ソフトウェア開発マネジメント交流会議]

※上記ホームページからパンフレットがPDFでダウンロードできます。また、HP上からもお申込み可能です。

F A X 申込書「第10期ソフトウェア開発マネジメント交流会議」(140081)

一社団法人企業研究会 宛て

2015年 月 日

☐ 会合の趣旨に賛同し、参加を申込みます。 ☐ 検討中のため体験参加で申込みます。

FAX: 03-5215-0951

会社名		会社所在地 〒	
正登録 (フリガナ) 氏名	所属・役職名	TEL	()
		FAX	()
		E-mail	
副登録 (フリガナ) 氏名	所属・役職名	TEL	()
		FAX	()
		E-mail	
その他(備考) 所属の住所が正登録、副登録者の住所が異なる場合はお知らせください。			

副登録者は主登録者と共に会合に参加いただける方です。特におられない場合は、空欄でも結構です。

お客様の個人情報は、本交流会議に関する確認・連絡および当会主催のご案内等をお送りする際に利用させていただきます。